

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

昨日8日は、一年の農事の締めくくりに「事納め」として昔の農家では、この日に一切の農具を片づけて、正月の準備を始める習

わしがあつた。年明けの2月8日の「事始め」まで農作業はお休み。娯楽の少ない時代には家族との団らんが大事だったのだろう。

現在は、少子高齢化や地方での生活維持が困難として、生まれ育った地域を離れて就職するなど地方の家庭では会話のない独居生活者が年々増加の一途だ。高齢になっても生き甲斐が持て、笑顔あふれる地域生活ができないものかと考えてしまふ。だが「介護の日」川柳コンテストで大賞に選ばれた「食べたっけ?」「食べさせたっけ」老夫婦、が地方の

高齢化社会の置かれた現状なのだろう。暗くなりがちな地域に、手を差し伸べる機運が高まってほしいと願うばかりだ。

長野冬季オリンピックで地域活性化を目的に資金確保のためにマーケティング業務経験

## メディア事業者の動向に注目だ

ば擁護の余地のない事も事実だ。だが多くのスポーツ現場では、大会の開催や運営に多額の経費を要しているし、専門的な競技運営能力の継続的な人材確保の課題もある。そのために運営や資金確保のために広

のある私にとって、東京五輪・パラリンピックのテスト大会を巡る入札談合事件の報道が気になる。談合を肯定するつもりはない事は言うまでもない。個人的欲望のためにすべての事柄を談合したなら

告代理店が責務を担っていた事は多くの人が理解しているはずだ。企業トップ逮捕の衝撃か、企業がスポーツ事業に魅力を感じられなくなったとの情報もある。企業頼りの文化スポーツ振興ではなく、

国民全体が考える課題だと、今回の事件から考えさせられた。サッカーのワールドカップカタル大会で国内放映権を独占確保して、64試合すべて無料配信した配信サービス「ABEMA」。これまでW杯の放映権は、国際サッカー連盟から日本最大の広告代理店・電通が購入してNHK・民報などのジャパコ・ノンシーアムが買い取って放映するシステムだった。しかし国内放映権が高額化して、各局も折り合いがつかず断念。日本代表の無

料中継を可能にしたのが「ABEMA」だ。オリンピックをはじめ多くの中継が、テレビで視聴できる時代にな

くなった事は、テレビの存在価値を問う事になるだろう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



スキー場への積雪に期待が高まる